よりひけりは山陰毛利の如く汝は天神の如く汝は天
事か和睦ふ細あるべし然るはまた生国を長
國濃国信長と一人為子て頼まれしが苦を九死
と御恨しる事ありて不図廻國行脚して武芳
の松をたのみ為此玉来はる遠きて君臣の礼を失す
二人の主を取らず宰浪孤狗の身となるといくも我
を強く拒絶せしかども情を義理を思ひ
の所と事を事と変故之武孤を山海に
引遁すとふ世と眞一方宗に対して所なる能登
皆之をすき生死の時の運を任せて去来自ら
坊として例の浮雲として行方を留光の微をう
ぬく閃として打合ひ高紐を切て西方の野狐
がらと捨て馳去で狸と狐を掴んで引
寄せ汝ハ方剛の云かな廣言程ありけるを低腹の衛
の先を乱しでして戦やとて捨ては二丈計中
に敷て深田の泥の中へ走る逃る打込ふ敵も味方も
之を見て去捨ふして立たる往昔宗治の戦の時本
号厳四天王根井大治右衛門行親河口の深を渡り越の中治郎